

春岡村の伝説

岩槻のにぎわい

春岡村の村人たちが買い物にでかけた岩槻の様子はどんな様子だったのでしょうか。

岩槻の市は六斎（ろくさい）といって、毎月1と6の付く日に御成街道（県道2号旧16号）沿いの市宿で開かれていました。他に初市、雛市、暮市がありました。市神様でもある八雲神社の前（岩槻郷土資料館のあたり）から本町4丁目近く（人形博物館の手前）まで店が並び、芋を洗うようににぎわいだったということです。八雲神社由緒によれば、永禄3年（1560年）正月に市を始めたとあります。

明治37年生まれの岩槻在住のおじいさんの手記などから

市の日は露店商人が道をせましと出る。甘酒、コンニャクの煮付け、スルメの煮付けが大きな傘の下で売っている。祭り気分を盛り上げるのがチョイチョイ買いな呼び売りです。

「すみからすみまで何をとっても2銭と5厘だ。こんなに安いものは二度とは買えない。サアサ売り切れないうちチョイチョイ買いなよチョイチョイ買いな」とはたきをかけながらの客寄せです。八雲神社の境内にはカラクリやろくろ首の見世物が客を呼び、綱渡りの芝居まで出る。初めて蓄音機が出てきた頃は、ゴムひもを耳にはさんで2銭で聞かせた。長井兵助の居合抜きもすばらしい。市日は生活用品を買いに行くのと同時に、百姓たちの慰安日でもあって、蒸し風呂に入ったり、上戸はお酒、下戸は田中屋の菓子を食ったりした。

（『岩槻史林14』『新岩槻史譚』）

田中屋本店（和菓子の老舗）

江戸時代からの老舗でペリーが黒船で浦賀に来た頃に創業。蔵造りの建物は嘉永年間に建てられたものだそうです。かつては市の日は店の前に縁台を出し、草団子やしょうゆ団子、汁粉などを出して評判となり、大名がお忍びで買いに来たこともあったということです。

岩槻郷土資料館

昭和5年に建てられた元岩槻警察署。国の有形文化財に指定されています。



岩槻八雲神社



市宿通り



田中屋

東三番街 平山由喜